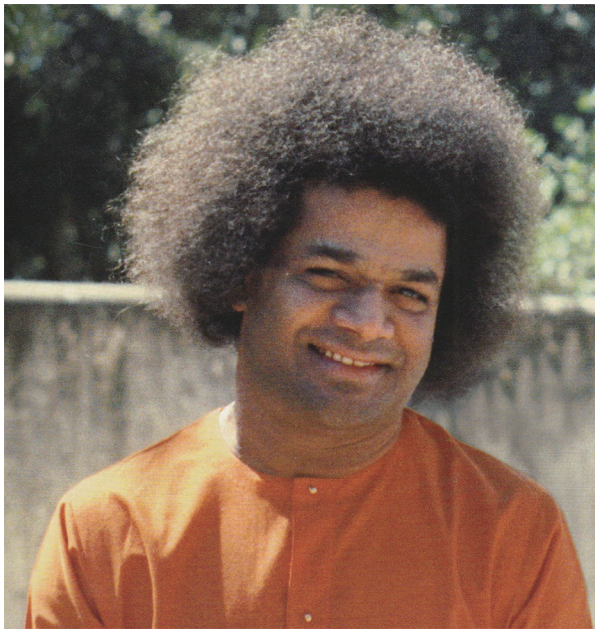


サイの御教え

サツティヤムシヴァムスンダラム四より
これがその答えです

なぜ太陽は、遅れることも破裂することもなく、毎日昇っては沈むのでしょうか？ 万人の目を楽しませるために空を照らす星々は、なぜ夜が明けるとそのきらきらと輝く顔を隠してしまい、自分はどこにいるかを告げようとこっそりとかすかに姿を見せることさえしないのでしょうか？ なぜ空気は常に私たちの周りにあって、命をつなぐ呼吸をもたらしているのでしょうか？ なぜ小川や河は、轟音ごうおんを立てたり、せせらいだり、笑ったり、岩や玉石や砂のことを噂したりしながら、自分の親である海に向かってくねくねと流れていくのでしょうか？ 人類を形成している何十億という人間は、同一の存在の写しを保管する宝箱でありながら、どうやって互いにまるで異なった容姿、業績、志、態度を持っているのでしょうか？ これがその答えです。そのようであるように定めた者が、私であると知りなさい。



Satyram Sivam Sundaram Volume 4, pp163-164